



第311号
 編集責任 筑波大学新聞
 編集代表 福原直樹
 TEL: 029(853)2040・6699
 E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp
 月刊
発行所 筑波大学
 茨城県つくば市天王台1-1-1

紙面から

学内循環バス	定期料金2倍に	2
記者の声	不審者がいない環境を	3
T・H・K筑波放送協会	最優秀賞を受賞	4
柔道	永瀬グランドスラム優勝	6
剣道	2年ぶりの優勝果たす	6
ライフスタイルデザイン講義	四角大輔さん講演	7

5
 これからの大学が変わる?
MOOC特集

おことわり
 今月号は8面構成で発行しました

基準満たしても実現せず

学生約8000人総額3.3億円

授業料免除

筑波大学で昨年度授業料の全額免除の基準を満たした学生約18000人のうち、半額免除しか受けられなかった学生が約8000人おり、その総額が約3.3億円に上ることが大学関係者への取材で分かった。国の予算不足が大きな原因で、昨年度の場合、半額免除の基準を満たしながら、3分の1免除になった学生もいる。このような状況は長年にわたり続いているとみられ、大学関係者は「予算は限られており、なるべく多くの学生の授業料を免除するための方策だった」と話している。(森脇慎二社会学類1年、原啓一郎同3年、2面に関連記事)

「国からの予算不足」

国立大学の授業料免除制(厳しく授業料の納付が困難な学生が対象で、文部省による)は、家庭の経済状況が「国からの予算不足」が原因で、文科省によると1949年から行われている。筑波大の場合、全額免除約18000人が全額、約6000人が半額の免除基準を満たしているという。

一方、国立大の授業料免除のための予算は文科省が決められており、筑波大の場合、昨年度は約8.5億円が国から支払われた。だが、このまま授業料を免除すると、合計で約11.8億円が必要となり、約3.3億円の不足。このため昨年度の場合、全額免除基準を満たした学生約8000人を半額免除にした他、半額免除基準を満たした一部を3分の1免除としていた。免除額の決定では、家庭の経済状況が厳しい学生を優先したという。

関東圏の2国立大に聞いたところ、やはり授業料免除のための予算が不足。例えばまず先に、授業料免除基準を満たした学生全員を半額免除にし、その上で、予算に余裕がある場合は、免除額の決定では、家庭の経済状況が厳しい学生を優先したという。

企業は、同センターに研究内容を説明する申請書を提出、審査で承認されれば、試料や情報を手に入れる。薬には人間にしか起こらない副作用があるため、製薬などの研究ではマウスなどの実験動物ではなく、人間の試料を使うことが望ましいとされる。また、試料と共に保存される患者情報を使えば、治療法や薬を個人の体質に合わせて「オーダーメイド治療」確立のための研究に役立てることもできるという。

同協議会は2004年設立。筑波大の他、同市や産業技術総合研究所、国土地理院など同市周辺の団体が参加。「環境」「労働衛生」「普及・情報」などの委員会に分かれ、筑波研究学園都市の国際性を生かしたより良い都市づくりを目指して活動を行っている。

同協議会の事務局次長だが、一つの課だけで対応できないとしている。

国内大初 非営利のバイオバンク設立



新たな治療法や薬の開発へ

手術や検査で採取し不要になった患者の臓器・血液などの「試料」や、患者の病歴の情報を各機関に提供し、将来の研究に役立てる「つくばヒト組織バイオバンクセンター」が11月1日、筑波大学附属病院に設立された。保存費などの実費を支払うだけで試料や情報を利用できる日本の大学で初の施設で、新たな治療法や医薬品の開発などに貢献する取り組みとして注目される。

これまで同様の「バイオバンク」は国内にあったが、利用手続きが煩雑だったという難点があった。そこで同病院は2009年から、非営利での組織づくりをスタート。保存費用などの実費を支払えば試料を提供できるという一方、試料の用途を審査する倫理委員会の設置などで、試料を用いた研究が科学的に適正かチェックする仕組みも作り上げた。

同病院では、集めた試料を数、四方の単位で専用容器に入れ、地下で冷凍保存する。また匿名化した患者の病名や治療・投薬内容などの情報は病院内で厳重に管理する。09年から試料収集が始まっており、現在約2万点が保管されている。試料を使いたい研究機関や

同センター長の大河内信弘教授(医学医系)によると、製薬会社や化粧品会社からの問い合わせがあるという。同教授は「今後は海外への提供も視野に入っていく。試料の提供が優れた研究につながってほしい」と話している。(井口彩社会学類1年)



つくばセンターにイルミネーションがともった。道行く人々は白い息を吐きながら、木々を彩る光のショーを見上げる。幻想的な輝きに、ほんの少し心が温まった気がした。(撮影・パク・ジョンヒョク=物理学類3年)

言葉には世の中を動かす、大きな力がある。新聞部の活動でそのことをひしひしと実感した▼今年4月、筑波大学の研究者の業績について記事を書いた時、他大学の研究者の目に留まり、最終的に両者の共同研究に発展した。「あなたが記事を書かなかったら、共同研究は始まらなかった。記者としての喜びを噛み締めた▼だが、言葉の力がマイナス方向に働けば、時に大きな破壊力を持つ。今年2月、コリアンタウンがある新大久保で、在日韓国人や朝鮮人に「日本から出て行け」と叫ぶデモがあった。ぶつけられるヘイトスピーチ(憎悪表現)の数々。罵詈雑言を浴びせられた人々ほどに苦しいことか▼仏教には「誹謗」という教えがある。言葉は人の心に突き刺さり、深い傷を負わせる。それほどではないが、時には人の命を奪うこともある。だから言葉には気をつけよ、という教えだ▼身体の傷はいつか消えるが、心の傷はいつまでも消えない。自分の不用意な言葉が、これまでとれただけの人を傷つけてしまったのだから、どうも思っただけから就職活動が始まり、ゆくゆくは社会人の仲間入りをする。そこでは、これまで以上にたぐさんの人々との出会いが待っている。コミュニケーション能力が試される場面が、何度も訪れることだろう。言葉の力を、決して忘れてはいけない。

筑協「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動



「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

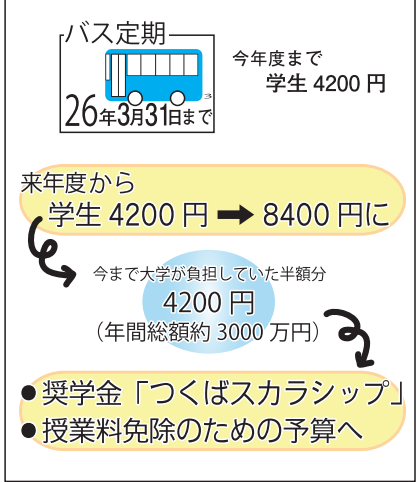
「暗いつくば」改善に自主活動

「暗いつくば」改善に自主活動

バス定期料金2倍に

授業料免除の予算に補てん

筑波大学筑波キャンパス内を走行する関東鉄道路線バスの定期券の学生利用料が、来年度から年間4200円から8400円に値上がりすることが、大学への取材で分かった。これまで大学が半額負担していたものを学生の全額負担に切り替え、その分を筑波大独自の奨学金制度「つくばスカラシップ」や授業料免除のための予算などに補てんする方針だ。



定期券は2005年に販売を開始。大学の負担額は年間約3000万円、販売開始から今年度までの負担額は合計で約2億円に上る。その一方で、国が全国の国立大学の経営を補助するために支払う運営費交付金の同期間の合計額は、筑波大で約13・9億円が削減されており、年間約3000万円の支出も負担

となっていた。そのため筑波大は、定期券に関する大学負担をやめ、これを「つくばスカラシップ」などに充てることを決定。同スカラシップは09年に始まった筑波大独自の奨学金制度で、主に外国人留学生と海外へ留学する日本人学生に、月額6万10万円の支援を行う。筑波大は、世界に通用する能力を持つ学生を育成するために、この奨学金を充てることができる学生を増やしたいと考えている。

計算科学研究センター

スパコンの性能向上 電力効率で世界3位に

計算科学研究センターは11月1日、昨年導入したスーパーコンピュータ「HA-PACS」に最新の計算機64台を増設し、計算速度を従来の1.5倍に向上させたと発表した。省電力化も実現し、同月21日に発表されたスパコンの電力効率を競う世界ランキング



性能が向上したスパコン「HA-PACS」

「グリーン500」では3位入賞を果たした。HA-PACSは昨年2月に運用が開始されたスパコンで、3022台(増設分64台を含む)の高性能計算機で構成される。計算機同士で仕事を分け合うことで、複雑な計算ができるため、宇宙誕生のシミュレーションを行う宇宙物理学の研究など多くの分野で活用される見込みだ。増設された計算機には、米国の半導体メーカー「エヌビディア」の最新の演算処理装置(GPU)が搭載されており、従来と同じ消費電力で約2倍の計算性能が得られる。また、同センターで独自開発した通信システムが導入され、計算機同士の通信時間はこれまでの3分の1に短縮された。

新種のトマトを開発 農家の負担減に

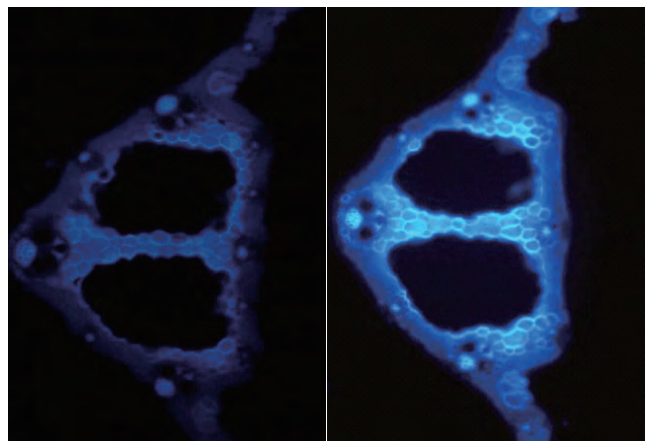
江面浩教授(生環系)と理化学研究所環境資源科学センターなどのグループは11月19日、受粉しなくても実がなる新しいトマトを開発したと発表した。現在特許を出願中で、新品種として実用化すれば栽培にかかる労力や費用を削減できると期待される。トマト栽培では通常、ハチに花粉を媒介させたり、ホルモン入りの薬剤を花に吹きかけることで実を作るが、これらの受粉作業にかかる労力は作業全体の約2割を占めている。研究者や農家は長年、受粉せずに実がなるトマトの品種開発を進めてきた。この技術の実用化を進めるという。

世界糖尿病デー 啓発イベント開催 糖尿病の知識広める

世界各地で糖尿病の予防や治療を喚起する目的で国連が定めた「世界糖尿病デー」の11月14日に、糖尿病の啓発イベントが筑波大学附属病院で行われた。会場には、指先から採取した血液から過去1〜2カ月の平均的な血糖値の高さが分かる測定機器が置かれており、医師や栄養士との相談コーナーが設けられ、高齢者を中心に約200人が訪れた。来場者のうち175人が機器を使った検査を受け、糖尿病の疑いがあると診断されたのは10人だった。来場した女性は「診療で病院に来たが、イベントの開催を知って指先検査を受けた。糖尿病の疑いは無いという結果を聞いて安心して話した。イベント代表者の矢作直也准教授(医学医療系)は「糖尿病は初期段階では自覚症状が無いことが多く、検査をしなければ分からない。このイベントで糖尿病についての知識が広まればうれしい」と話した。

新燃料の実用化に 一歩前進

岩井講師ら研究グループ 稲のセルロース量増加に成功



セルロースを染色した細胞壁 左=一般的な稲、右=今回作製した稲

岩井宏暁講師(生環系)らは稲の特定の酵素を活性化させることで、環境に優しい新エネルギーとしてバイオエタノールの原料となる稲の葉や茎内のセルロース量を増やすことに成功した。今までコメなどの食糧からの生産が研究されているが、今回の成果は稲の茎から生産できるため、低コスト化などにつながる可能性がある。近年、地球温暖化や化石燃料資源の枯渇から、環境に優しい新エネルギー開発が急がれており、その一つとしてバイオエタノールの実用化に向けた研究・開発が行われている。その原料として注目を集めるのが、食用に適さない、稲の茎などに含まれるセルロースだ。

バイオエタノールを作る際は、セルロースなどを構成される細胞壁を分解・発酵する。だがセルロースは分解しにくい「ヘミセルロース」などの物質と結合しているため、バイオエタノールを作り出すには多くの手間と大量のエネルギーが必要となる。これまでシロアリ関連の酵素などを使ってヘミセルロースを減らす試みもあったが、稲がうまく育たなかった。そこで今回岩井講師は稲の生育を妨げないように、稲の特定の酵素を活性化することで稲自身が持つ酵素を過剰に発生させたところ、茎などのヘミセルロースが50%減少した。今回の研究では稲自身の酵素を使い、ゆるやかに「稲に優しい」形で変化させたため、茎などのセルロース含有量が30%も増加。この際、稲の生育や可食部のコメにも影響はなかった。

大藏准教授が考案

「スクエアステップ」全国へ 転倒や認知症予防に効果



スクエアステップに取り組む高齢者

大藏倫博准教授(体育系)が2000年に考案した、高齢者の転倒や認知症予防の運動「スクエアステップ」が全国各地の老人ホームで取り入れられるなど、普及が進んでいる。同准教授は07年にNPO法人「スクエアステップ協会」を設立し、同協会の講習を受けた約1500人の指導員が各地で高齢者に指導している。スクエアステップは25センチ四方の正方形が縦4列、横10列並んだマットの上で行う。足の運びは、中央の縦2列を交互に踏んで前に進む単純なものから、横や後ろ、斜め方向に進む複雑なものまでさまざま。足腰が鍛えられて転倒を防げるだけでなく、足の運びのパターンができるようになるという。

大藏准教授は「指導員だけでなく一般のボランティアも増やし、全国の中学校の校区にスクエアステップのサークルを作るのが目標」と語った。

第2回「哲学カフェ」

第2回筑波大学「哲学カフェ」が12月22日(日)14時から筑波大学東京キャンパスの文京校舎で行われる。

当日は、津崎良典助教(人社系)ら人文社会科学研究所哲学・思想専攻の教員4人が講師を務め、参加者と「幸せとは何か」「死とは何か」などのテーマについて語り合う。なお、哲学カフェは毎月第4日曜日につくば市内または都内で開催されている。参加費は無料でメールでの申し込みが必要。先着20人。

申し込み = tsukuba.tetsugakucate@gmail.com
詳細 = <http://www.tsukuba.ac.jp>

アカペラサークルDooood

アカペラサークルDoooodのコンサート「Winter Live 2013」が12月28日(土)につくばカピオ(つくば市竹園)で開かれる。今回のテーマは「あたたかい冬の音色」で、邦楽や洋楽などさまざまなジャンルの曲を歌い上げる。17時30分開場、18時開演。チケットは前売り券500円、当日券600円で小学生以下は無料。当日受付で合言葉「たたいま」と言う当日券も前売り価格で購入できる。問い合わせ = dw.winterlive2013@gmail.com

第30回 NHK 全国大学放送コンテスト THKが最優秀賞を受賞



賞状とトロフィーを手に優勝の喜びを分かち合う会員たち

全国の大学・短期大学の学生を対象とした「第30回 NHK全国大学放送コンテスト」の本戦が11月23-24日、京都フスニー(京都市中京区)で行われた。筑波大学からはTHK筑波放送協会が出場し、7部門中4部門で優勝。そのうち135団体から500を超

7部門中4部門で優勝果たす

秘密保護法案の行方は？



海後宗男

近年、情報通信技術の発達やネットワークの普及により、さまざまな情報を扱うことが容易になった反面、情報漏えいも同等なくらい簡単に。最近の情報漏えい

筑波時評

保障を考えれば、国家秘密などの保護に関する法律は当然必要である。秘密の漏えいに対する厳しい罰則は、欧米では当たり前のものであり、我が国の特定秘密保護法案はこうした懸念も含めて、「特定秘密」の漏えいを防ぐことが目的であり、罰則を強化し、取扱者の適性評価を実施することによって管理をすることを目的とする。最近になってメディアではこの特定秘密保護法案に対する批判的な意見が目立つようになった。

「秘密」といっても何がどこまで秘密なのか、秘密のまま法案が通ってしまう」というように、国会審議の拙速さを批判している者が多い。11月21日には、特定秘密保護法案に反対する集会が開かれ、国の情報隠しを恐れてか、こうした反対運動やイベントがメディアで報道されているが、参加者からは、「なんとこの困難な時代がやってきたんだ」と嘆く声も聞かせる。果たして日本の安全保障を確保するものとなるか、我が国を崖っぷちに追いやる法案となるか……。(入社社・准教授)

多くの作品が集まり、本戦ではそのうち51作品がしのぎを削った。THK筑波放送協会の作品は5部門で各1作品ノミネートされた。文科科学大臣賞に輝いた「時代」は、規定のテーマから自由な内容を考え、30秒以内で表現する「映像CM部門」に出品された。今回のテーマは「かいてん」。扇風機の羽の動きと登場人物の年齢の移り変わりを「回転」変化に結びつける一方、皆様に扇風機に顔を近づける光景から「変わらぬ」ものの重要性を表現した。制作者の佐々木さゆりさん(物理3年)は「30秒の短い作品に『いつの時代も変わるものがない、変えてはならないものがある』という思いを込めた。素晴らしい評価を受けてとてもうれし」と笑顔で話した。

つくばショートムービーコンペティション 高島さんがグランプリ受賞 全工程を一人で制作

さん(情報創成4年)の作品「REAL VALENTINE」がグランプリに輝いた。この作品は筑波大学を舞台に、バレンタインデーにチョコレートをもらえず手投げ弾を手に暴走する男子学生と、それを止めようとする大学の特殊部隊との抗争を描いた約9分間のアクションコメディ。脚本から撮影、編集まですべての工程を高島さん一人で行った。高島さんは「続編を作ってほしいという声もあるけど、『REAL WHITE EDY』の制作も考えている」と今後の制作への意欲を見せた。

公園が美術館に 国安教授の作品も



研究学園駅前公園に置かれた作品

国安教授の作品も展示された。この作品は公園内に展示し、新たな魅力を生み出す。野村美穂(アートセッション)が、10月19日から11月24日にかけて研究学園駅前公園(つくば市葛城根崎)で開催された。同展は2007年から隔年で開催されており、4回目となる今回は「見て、感じて、自分で思ったことは忘れない。」がテーマに掲げられた。出展者は国安孝昌教授(芸術系)や塩谷良太さん(平成17年度芸術研究科デザイン専攻修了)の他、つくば市や近隣に住む造形作家13人。作品は石や金属布などでできており、抽象

安全対策を促す。学生や教職員の飲酒マナー、防犯意識の向上を目指す、学生生活支援室主催の「セーフティライフ講習会」が11月19日、1日棟201で開かれた。課外活動団体の代表者ら約100人が訪れ、飲酒や防犯についての講演に耳を傾けた。前半は、学生生活課の菊地文武専門職員が飲酒によるトラブルについて講演。学内で発生した飲酒に伴う事件・事故を例に挙げ、「飲酒についての正しい知識が必要だ」と強調した。また、参加者に向けては「先輩としての自覚を持ち、未成年者の前では飲酒を避けるなど、飲み会の在り方を再考してほしい」と呼びかけた。

復興支援プロジェクトが 活動の成果が評価される



学生らが制作した「やぐら」と「かまど」

品が、「東京デザインウィーク2013 ASI AWARDS」の学校作品展で準グランプリを受賞した。この作品展は、10月26日から11月4日まで明治神宮外苑の聖徳記念絵画館(東京都新宿区)前などで開催され、芸術を学ぶ国内外54校の学生が出品。筑波大は初出場で快挙を達成した。会場には、被災地で祭りを開いた際に作ったヒールケースの「やぐら」や、れんがでできた「かまど」を展示。子どもから大人までの多くの来場者でにぎわった。展示に加えて学生がフ

紙上の至高なるもの 美術品23点を展示 日本の現代美術に触れる

石井昭さん(株式会社書道流通センター取締役)が、筑波大学に寄贈した美術品の数々「石井コレクション」の特集展示「紙上の至高なるもの」が11月12日から12月1日にかけて、大学会館アートスペースで開催された。石井さんの「自分の所有する美術品を大学の教育と研究に役立ててほしい」という意向で、筑波大には2005年以降、絵画や陶磁器などの美術品が贈られ、その数は現在200点を超え、国内外の美術館で



展示された「石井コレクション」

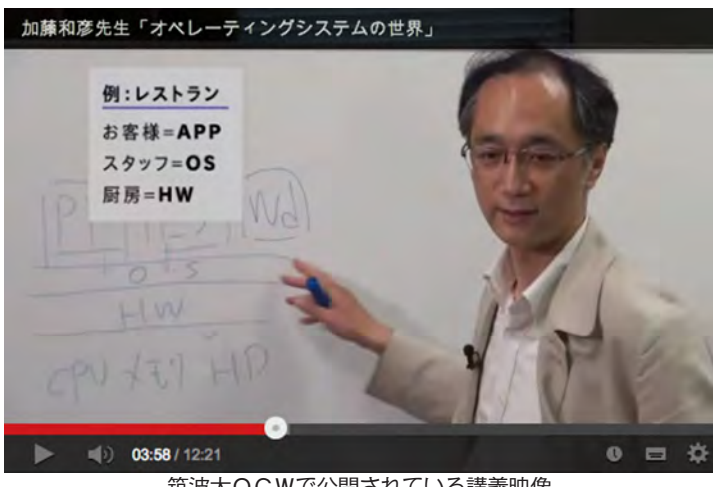
の展示会にも出品されて高い評価を受けている。5回目の特集展示となる今回は、日本の現代美術の草分け的存在である池田満寿夫さんら5人の美術家の版画や水彩画23点を公開。紙という共通の素材を使いながらも、それぞれの世界観があらわれた作品が並んだ。石井コレクションの研究に携わる寺門臨太郎准教授(芸術系)は、「石井コレクションは学外にも誇れる筑波大の財産だが、学生にあまり知られていないのが残念。展示を通じて、もっと多くの学生に広めたい」と話した。

後半はつくば中央署の菅原英夫署長が講演し、始めに、オートロックマンションを狙って居住者が寝ている間に部屋に侵入する「忍び込み」の事例について説明。事件が多発していることから「誰でも犯罪に巻き込まれる可能性がある。自分の防犯意識を見直ししてほしい」と訴えた。また、女性を狙った痴漢やわいせつ事件、下着泥棒が頻発していることも紹介。女子学生に対して「犯人はペランダの洗濯物を見て家族構成などを推測している。男物の衣類をペランダに干したりして対策してほしい」と話した。講習会に参加した鄭サムエルさん(心理1年)は「つくば市の犯罪について知らなかったことも多く、ためになった」と話した。

これから大学が 変わる? MOOC 特集

MOOC 導入は未定

筑波大ではOpen Courses (OCW) というシステムを使い、講義の様子を無料で配信している。OCWのサイトを開くと、コンピュータシステムの講義や永田泰介学長の講演などが見られる仕組みだ。



筑波大OCWで公開されている講義映像

日本でもMOOCの導入が進む中、筑波大学は現在どのような取り組みを行っているのだろうか。

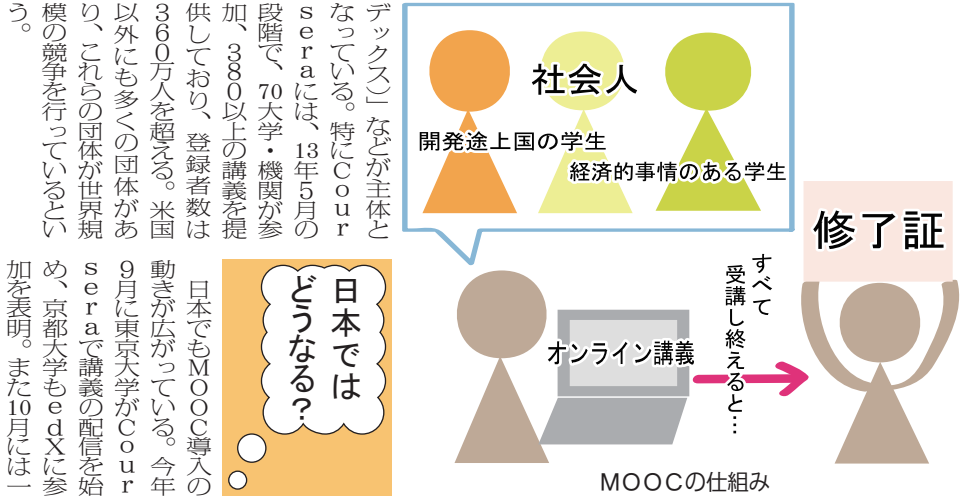
OCWは2003年に米国のマサチューセッツ工科大学によって開発・導入され、その後世界中に急速に広がった。MOOCには課題

MOOCとは?

MOOCを直訳すると「大規模公開オンライン講座」となる。インターネットを通じて行われ、2012年からハーバード大学、スタンフォード大学など主に米国の有名大学で導入された。今年からはヨーロッパやアジアの主要大学も参加し、日本でも9

オンラインで無料受講

MOOCは、オンライン講義のため受講人数が限定されず、過去20万人近く受講した講義もある。講義は原則英語で行われ、利用者はインターネット上で定期的に配信される映像で学習を進めることになる。課題を提出したりテストを受けると、受講修了証をもらえる。米国内では、基金を元に営利団体として活動する「Coursera」(コースセラ)や大学が資金を出し、非営利に行う「edX」(エ



日本ではどうなる?

日本でもMOOC導入の動きが広がっている。今年9月に東京大学がCourseraで講義の配信を始め、京都大学もedXに参加を表明。また10月には一

日本独自の仕組みも

一般社団法人JMOOC(日本オープンオンライン教育推進協議会)が発足し、日本版MOOCを推進する体制が整えられた。主に米国の大学が運営しているMOOCでは、講義のほとんどが英語で行われるため、日本人が受講することは難しい。また講義を開講できる大学が各国のトップ校に限られており、東京大など一部の大学を除き、日本の多くの大学はMOOCに参加できなかった。

MOOCの問題点

制作には膨大な労力や時間、資金が必要となり、150分の映像の場合打ち合わせや編集も合わせると、その5倍の時間が必要となる。その上、映像は情報があふくため、振り直しが必要となる。大学での講義と違い、インターネット上に公開されるため、逸村教授は「著作権に関する手続は煩雑で、大きな問題だ」と指摘する。

大学の存在意義とは

MOOCが広まれば、大学での講義や大学そのものの意義が問われることになる。ゼミや研究などでは、対面授業を行うことが大切だという意見がある一方で、「概論のような基礎的な講義はMOOCで代用できる」「魅力の無い講義をするなら世界トップレベルの講義を受けられるMOOCの方が良い」という意見もある。逸村教授は、MOOC導入で「大学とは何か?」「キャンパスとは何か?」が問われ、教育が大きく変わるだろう」と話している。

東京大の取り組み

後修了証が発行されるのに対し、OCWはこのようなことは行わない。

筑波大では、OCWをより多くの人に大学の講義に興味を持ってもらうための「窓口」としてとらえている。大学に行かずに実際の講義の様子が見られることを生かし、できるだけ多くの高校生や社会人にOCWの講義を見てもらうことで筑波大への志願者を増やすことも狙いの一つだ。筑波大は今年度改めてOCWの方針や体制を見直し、10月にサイトのリニューアルも行うなど、OCWの改善に力を入れている。そのため筑波大ではMOOCを導入するかどうかの見直しはまだ立っていない。

教授が英語で講義

一般に公開されているのは講義の導入部分だ。講義では教授自身が流ちょうに英語で説明。さまざまな映像と共に講義が進行し、テレビのドキュメンタリー番組のような迫力もある。4週間ほどで完了するもので、すべての講義を受講すると修了証が発行される。東京大は受講者数を2講義合わせて数万人と予想している。

JMOOCに参加する東京大は、「反転授業」に関する研究を始める予定だ。株式会社NTTドコモと共に

視点

MOOCは世界中の講義を自宅で受講できる手軽さや、米国内ではその修了証を就職活動に使えるなどの利便性で注目を集めている。世界最高級の講義を受けられるMOOCが将来、各大学の講義に取って代わる可能性は高い。だがその一方でMOOCは、大学が世界中の学生に講義の魅力を伝える手段ともなるため、当面は留学生を呼びよせる糸口にもなりそう。

筑波大にもMOOCを

MOOCにも解決すべき課題がある。米国内では約20万人が受講する人気講義がある一方で、「あるオンライン講義を受講していた学生は、教室で講義を受講していた学生よりはるかに成績が悪く、途中で受講を取り消す学生も多かった」という報告もある。原因の一つとして、学生がMOOCの講義に興味を持ち続けられなかったことがあるという。受講者を飽きさせない講義を作っていく工夫がMOOCには必要だ。

大学とMOOCの両方に求められるのは、「学生のニーズに合った講義とは何かを改めて考えることだ。MOOCを配信するシステムの整備だけでなく、その講義内容を継続的に審査する体制を作るなど、MOOC全体のレベルを上げるための仕組みを作るべきだ。日本でもMOOCの修了証が就職活動で大きな効果を発揮するなどの措置も講義を開講する……などで、筑波大の特色をアピールしていくべきだろう。(井口彩)社会学類1年



問題点について語る逸村教授

グランドスラム東京2013 永瀬が一本勝ちで優勝

決勝で世界王者破る

柔道

柔道のグランドスラム東京2013が11月29日から12月1日にかけて東京体育館(東京都渋谷区)で行われ、81kg級で永瀬貴規(体専2年)が5試合すべて一本勝ちで優勝を果たした。永瀬は11月9-10日に行われた講道館杯全日本体重別選手権大会で初優勝を果たし、今大会の出場権を獲得。講道館杯の女子48kg級で準優勝し、同じく出場が決まっていた遠藤宏美(同3年)は、脱臼した左肩が完治せず欠場した。

永瀬は初戦の2回戦でアメリカのライオン(ニューギニア)と対戦し、内股一本勝ち。3回戦も相手の反則で勝利し、準々決勝では世界ランキング1位のチリキシビリ・アブタン(ブルンジ)を相手に再び一本を取るなど順調に勝ち進んだ。

準決勝の相手はロンドン五輪代表で講道館杯の決勝で対戦した、中井貴裕(ベトナム)。開始直後から激しい相手争いとなるが、2分30秒過ぎに永瀬が内股で技ありを取る。そのまま押さえ込み合わせて一本勝ち。決勝では今年8月に開かれた世界選手権の覇者、ピエトリ・ロイク(フランス)と対戦。両者共攻めあぐねるが、残り9分を切ったところでピエトリが指導を受ける。残り1分を切ったところで、永瀬が指導を受けたのを利用して、永瀬は相手に右から相手の股下を刈り上げ、鮮やかな足車で世界王者を畳にたたきつけた。

増地克之監督(体育系・准教授)は「今大会で優勝し、自信がいったと思う。来年の国際大会でも結果を出し、世界選手権代表の座を勝ち取ってほしい」と語った。

高橋・松浦が総合優勝決める 筑波大勢が上位独占

体操

第19回全日本ラト競技選手権大会が11月30日、12月1日につくばカピオアリーナ(つくば市竹園)で行われた。男子総合では高橋靖彦



斜転の演技をする堀口

(平成24年度体育修了)が優勝し、田村元延(コーチ1年)は2位に入賞するなど快挙を達成。また、女子総合では松浦佑希(体専3年)が優勝した他、堀口文(体育1年)は2位になるなど、男女共に筑波大学勢が上位を独占した。

男子の部では高橋が斜転で10・15という高得点を記録。その他の種目も圧巻の演技で全種目優勝を果たした。高橋は「今回の大会は選手のレベルが非常に高く、緊張した。世界大会で優勝したためプレッシャーを感じていたが、実力を発揮できて良かった」と語った。

女子の部では松浦が直転3位、斜転と跳躍で2位というバランスの良い成績

ち。決勝へ駒を進めた。決勝では今年8月に開かれた世界選手権の覇者、ピエトリ・ロイク(フランス)と対戦。両者共攻めあぐねるが、残り9分を切ったところでピエトリが指導を受ける。残り1分を切ったところで、永瀬が指導を受けたのを利用して、永瀬は相手に右から相手の股下を刈り上げ、鮮やかな足車で世界王者を畳にたたきつけた。

増地克之監督(体育系・准教授)は「今大会で優勝し、自信がいったと思う。来年の国際大会でも結果を出し、世界選手権代表の座を勝ち取ってほしい」と語った。

東京経済大を抑え優勝 大澤がMVPに

野球

首都大学野球新人戦が11月9-12日に平塚球場(神奈川県平塚市)などで行われ、筑波大学が決勝戦で東京経済大を破り、優勝を果たした。新人戦MVPには3試合で9打数4安打を記録した大澤永貴(体専1年)が選ばれた。

準決勝で東海大学を10-2で下して迎えた決勝は1回から、接戦となった。筑波大は初回、1番・板崎直人(同2年)の中前打を足掛かりに先制。3回には水野将吾(同2年)の右中間二塁打や相手のエラーなどで3点を追加した。3回裏からは大間幹起(同2年)がリリーフ登板。大間は6



5回1失点と好投する大間

第61回全日本学生剣道優勝大会 2年ぶりに日本一 決勝で法政大下す

剣道

第61回全日本学生剣道優勝大会が11月4日、日本武道館(東京都千代田区)で

開催され、筑波大学が2年ぶりの優勝を果たした。同大会は、7人1チームの団体トーナメント戦で、全国8地区の代表64校が出場。筑波大は準決勝で日本体育大学、決勝で法政大学に勝利した。

決勝では、先鋒・林田匡平(体専2年)がドウを決められ、法政大が1勝を先取した。続く5人も、相手の堅い守りを崩せず引き分けに終わり、劣勢のまま7試合目の大将戦へ突入。だが大将・山下渉(同4年)はしっかりと2回のメンを奪って勝利し、優勝の行方を代表戦に持ち越された。

時間無制限で先に一本を取った方が勝ちとなる代表戦では、鍋山隆弘監督(体育系・准教授)がプレッシャーに負けず自分の剣道ができる」と評する竹ノ内佑也(同2年)を起用。試合開始から3分で、竹ノ内が期待に応える鮮やかなメンを決め、筑波大の優勝を決めた。

鍋山監督は「厳しいけどこの成果が出た。決勝ではなかなか一本を取れなかったが、ミスは少なかった」と振り返り、「選手には春の個人戦に向けて、けいこを積み重ねてほしい」と語った。

回に1点を失ったが、5回1失点と好投した。9回には瀬川篤(同2年)が連続四球と失策で一死満塁のピンチを迎える。野々村高志(同2年)にスイッチ。野々村は三ゴロの間にも失点したが最後は三振で締め、粘る東京経済大の反撃を抑えて4-2で勝利した。

川村卓監督(体育系・准教授)は「ピンチでの声かけなど、技術以外の部分をしっかりとできたことが優勝の要因だと思う。ミーティングを多くして、チームの意思疎通を図ってきた成果が出た」と手応えを口にしている。

第87回関東大学サッカーリーグ 最終順位は6位 インカレ出場へ

サッカー

4月から開催されていた第87回関東大学サッカーリーグが11月24日に閉幕し、筑波大学は8勝8敗6引き分け、勝ち点30で6位に終わった。同リーグの5

位以上にインカレ出場権が与えられる仕組みだが、5位の流通経済大学は8月の総理大臣杯優勝チームとしてすでに出場が決定しているため、繰り上がりでインカレ出場権を獲得した。

11月23日に味の素フィールド西が丘(東京都北区)で行われた最終戦の順天堂大学戦では、前半、攻撃のリズムを作れず立て続けに2失点し、試合の主導権を握られたまま終了。

だが前へのパスを増やそうと臨んだ後半は一転、筑波大のペースで試合が進む。61分には曾山慶太(体専4年)のゴール前へのパスが、相手DFのオウンゴールを誘い、1点を獲得。しかしその後はチャンスを作れず、試合終了間際には3点を決められ、1-3で敗北した。

主将の谷口彰吾(同4年)は「優勝を逃したのは悔しいが、気持ちを切り替えて(12月14日に開幕する)インカレに向けて技術を磨いていきたいと話した。(8面に関連写真)

第45回関東学生弓道選手権大会 団体で準優勝

弓道

第45回関東学生弓道選手権大会の決勝大会が11月4日、東京武道館(東京都足立区)で行われ、筑波大学は団体で男女共に準優勝を果たした。

男子団体は東海大学、大

東文化大学と対戦。中攻の筑波大は160射111中で、先攻の東海大の160射112中に一歩及ばず準優勝となった。

女子団体の相手は大東文化大と都留文科大。中攻の筑波大は後攻の都留文科大の60射43中を上回る60射44中という結果だったが、先攻の大東文化大の60射47中に届かず準優勝だった。

顔

今年1月のラグビー大学選手権大会準決勝・東海大学戦。50びを5秒8で走る俊足で筑波大学を国立大初の決勝戦へ導いたのは、当時1年生だった福岡堅樹(情科2年)。誰も認める速さを持ち日本代表としても活躍するが、強みはそれだけではない。



日本ラグビー界のスピードスター

福岡堅樹(情科2年)

し支えてくれた医師にありがとうが言いたくて、医学とラグビーの両立が可能な筑波大の医学部を目指したが、現役では不合格。ラグビーに限界まで挑戦したいと考え、他大の医学部ではなく筑波大のラグビー部を選び、一浪して後期で情報科学部に合格した。「これからはどの分野でもコンピューター関係の知識が必須になる」と考えての選択だ。

親元を離れ、今は一人暮らし。授業と部活の合間に自動車学校に通う

守れる。筑波大ラグビー部の古川拓生監督(体育系・准教授)はそう称賛する。

福岡がラグビーを始めしたのは5歳の時。ラグ

フォームを改良。速さを磨きながら、週末にラグビークラブでの練習に励んだ。

だが、高校時代に2回の挫折を味わった。2年

ん帯を断裂した。リングができてくるとも苦しい時期だったが、その苦しさがあったからこそ自分がある」と振り返る。

大学進学は、医師だった祖父や、手術

ど充実した毎日を送っています。趣味は楽器の演奏。3歳からピアノを習い、小学4年生の時には九州・山口のコンクールで最優秀賞を取るほどの腕前だ。

卒業後はプロを目指す。目標は日本開催の2019年ラグビーW杯出場だ。医師の夢もあきらめず、選手引退後に医学部に編入を考慮している。「けがの苦しみは誰よりも分かる。自分を救ってくれた医師のように、心のケアもできる医師になりたい」と語る。

福岡にとってラグビーは「人生の喜びの部分であり、生活の一部。なくなることは考えられない」。まずは12月からの大学選手権大会初優勝を目指す。見る人を魅了するスピードと、守備でも体を張れる強さを持つ福岡の活躍に期待したい。(市原ひかり=社会工学科3年)

「人生の喜び」を追いかけて

第13回全日本チャレンGボール大会

Gボールで演技を披露



「ルパン三世のテーマ」に合わせて演技する参加者

リズムカルに躍動する

人が上に乗ってさまざまな競技の全国大会「第13回全日本チャレンGボール大会」が11月23日、中央体育

館体操場で開催された。約80人が出場し、Gボールの上で跳ねたり、音楽に合わせて演技をしたりと練習の成果を披露した。

大会は計測部門と演技部門に分かれており、計測部門ではGボールの上で跳ねたりバランスをとったりする技術を競う。演技部門では、二人一組で規定の演技を見せる「シンクロダンスGボール」と人数制限無しで自由に創作した演技を披露する「オープン演技」の2種目を行った。

ライフスタイルデザイン講義

四角さんが講演 自身の経験を語る

歌手の絢香などのプロデューサーとして活躍後、ニュージブラントに移住し、執筆活動も行う四角大輔さんの講演会「ジブラントのための『ライフスタイルデザイン講義』」が11月19日、3A棟202で行われた。

このイベントは、学生の自発的な活動を大学が支援する「つくばアクションプロジェクト」の一環として行われた。

講演の最後には「Thank Different」というスローガンを掲げたアップル社のCMを流し、「人は誰もが特別である」というメッセージを訴えた。

第37回秋季スポーツ・デーが11月17日に陸上競技場など学内20カ所の会場で行われた。2日間共、気温が17度前後とスポーツには絶好のコンディション。正式種目の伝言では、参加者が陸上競技場からスタートし、追越舎付近で折り返して第一エリアまでたすきをつないだ。全19チームが参加した男子部門では、トリアスロン部の



駅伝で1位でゴールする山下さん

難民交流会

難民と意見を交換する

支援についての議論も

紛争や宗教上の理由で母国を出て、日本で生活している難民と交流するイベント「難民交流会」があなたの「難民交流会」を定期的(茨城県牛久市)を定期的に訪れ、難民保護を受けるための手続き中の収容者と

前半は、母国で生活できなかった人が難民になる過程や同団体の活動について劇を交えて解説。世界中で難民の数が増加していることや、同センターの生活環境の悪さを紹介した。

後半は参加者と収容者がディスカッションを行った。収容者の一人が「これ10人と現在の難民問題や難民支援の在り方について意見を交えた。

学生の存在が心の支えになっている」と話す。参加者から「収容者の生活水準を向上させるべき」「自分たちが収容所に行くと難民の人と話したい」などの声が上がった。

本将太郎さんは「周りの人にも、日本にも難民がいる」ということを伝えたい」と話した。また、代表の帖佐光江さん(国総2年)は「この交流会を通して難民問題を身近に感じてほしい」と語った。

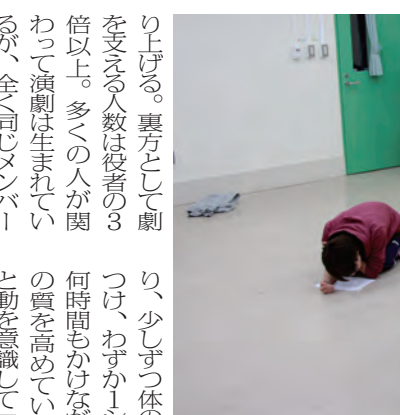
「このね、僕トゲトゲしてるから。痛かったでしょ?」「いい、岩がしゃべった!」。教室に響く声に、通りがかった人は目を疑うかもしれない。もちろん、本物の岩がしゃべるはずがない。岩にふんしているのは劇団筑波小劇場の役者たちだ。



難民の経験を聞く参加者

劇団筑波小劇場

劇団筑波小劇場は約30人が所属する演劇サークルで、年間4、7回の公演を学内外で行っている。公演の度に、舞台上立つ役者の他、劇全体を取りまとめる立場の演出、役者



妥協を許さぬ役者魂

裏方として劇を支える人数は役者の3倍以上。多くの人が関わって演劇は生まれているが、全く同じメンバーで、少しずつ体の動きをつけ、わずかにシーンに何時間かかっても演技の質を高めていく。「静と動を意識して」という

動きへの指示だけなく、「周りの人に生かされて今の自分があるんだ」と意識しながら演技して、「という内面から役になりきるためのもの。最後は台本を真面目に演技をするようになり、本番を迎える。

Who's Who?

「TSUKUBAN BEAUTY 2011」で女装して優勝

五十嵐大悟さん (人文4年)



特製の電飾ドレスを着た五十嵐さん

2年前、第37回学園祭開催された筑波大学の「TSUKUBAN BEAUTY 2011」に女装して出場し、女子学生を抑えて優勝を果たした男子学生がいた。女装時には「あしやまひろこ」を名乗る五十嵐大悟さん(人文4年)だ。現在は、栃木県足利市のアニメ風のキャラクターを使った「まぢおこし」に関する研究を行っている。他、就職活動の最終面接に女装姿で臨

み内定を決めるなど、多岐にわたった活動を行っている。高校生のころは文芸部や美術部、化学部など同時に7つの部活動を兼部。興味関心は広がったが、特に機械が好きで、幼いころはエンジン車になったり、文化祭にメイド服姿で参加するなど、本格的ではないが女装を趣味として楽しんでいたという。筑波大では文系の

自らアイデアを出した「電飾ドレス」は電気工学や洋裁に長けた友人などと共同制作したもの。優勝を後押ししたのは五十嵐さんの熱意と、仲間の協力だった。「友人の支え無しでは優勝は不可能だった」。筑波大には好きなことをやっても周りに馬鹿にされない校風があり「自分の趣味に打ち込みやすかった」と話す。女装は就職活動でも生かされた。ある大手企業の「余人を持って代えがたい人材」を募集する求人枠に応募。最

「女装は自己アピールの手段」 宗教学生かしたもののづくりも

終面接で、電飾ドレスを着て女装姿を披露した。服装のインパクトもさることながら、プレゼンテーション課題の説得力や論理性が評価され、内定を獲得した。「もはや女装は自分をアピールする手段になった」と苦笑する。五十嵐さんの活動は女装にとどまらない。大学2年生からは専攻の宗教学に専念して、栃木県足利市の神社の神様をモチーフにしたキャラクターを使った「まぢおこし」の事例を研究。聴き取り調査やアンケート分析を行った他、石川県金沢市などの事例も現地調査した。調査結果を研究会で発表し、それを基にした論文は昨年12月に学術雑誌に掲載された。「東京だけでなく、地方ももっと盛り上げたい」と現在も卒業論文に向け研究を重ねている。

ものづくりに関しては、今年11月の学園祭で2次元のキャラクター「初音ミク」のシルエットを、直方体の透明で平らなケースの中に煙を充填させた自作のスクリーンに映し出し、立体感を与えることで実際にキャラクターが存在するように見える装置を開発し、展示した。これは「光と神秘性」といった宗教学の知見や、これまでのものづくりの経験が生かされていると語る。また、女装時に身に付ける胸パッドを他の人に触られた際に、非女装時には無い嫌悪感を覚える身体感覚についても研究。今年4月に、気鋭の学者や民間の研究者が参加する「ニコニコ学会β」というイベントで成果を発表し、特別賞の一つである「座長賞」を受賞した。それを発展させ、脳波を使った研究内容を、自ら企画・編集した「女装と思想」という同人誌で発表するなど、研究に終わりはない。

性別や学問領域を超えてさまざまなことに挑戦する五十嵐さん。「女装の聖地」筑波大に新たな女装の星が出てきてくれれば」と期待するが、彼を超える強かな才能を持つ女装男子は当分現れそうにない。(平嶋健人 社会学類2年)

編集後記

この号を最後に3年生は引退します。活動を支えて下さった広報室の方々、厳しくも熱い指導が魅力の編集代表の先生、そしてそれぞれの強みを全力で発揮し、新聞を作り上げた部員たち……。多くの人の支えがあり、無事に新聞を発行できました。ありがとうございました。今号からキャンペーン「つくばに街灯を」を開

次号は

1月27日(月)

発行予定です

創造的復興プロジェクト



復興支援のイベントで実際に作ったれんがの「かまど」

4面へ

全日本ラート競技選手権大会



全種目で優勝した高橋の演技

6面へ

関東大学サッカーリーグ



ドリブルで敵陣に切り込む曾山

6面へ

全日本ちゃれんGボール大会



「Gボール」を使った演技を披露した参加者

7面へ

学芸

スポーツ

スポーツ

学生生活